

# マルチチャート 設定マニュアル

2021/04/14

### 第3編 リアルデータを含む過去数年のチャート表示

第2編では、価格（データ）をチャートに表示するために必要な事前設定などをご紹介しました。当該設定により、マルチチャートでリアルタイムのチャートはもちろん、過去数年のチャートの表示を行う準備ができました。チャート表示を行う手順は以下になります。

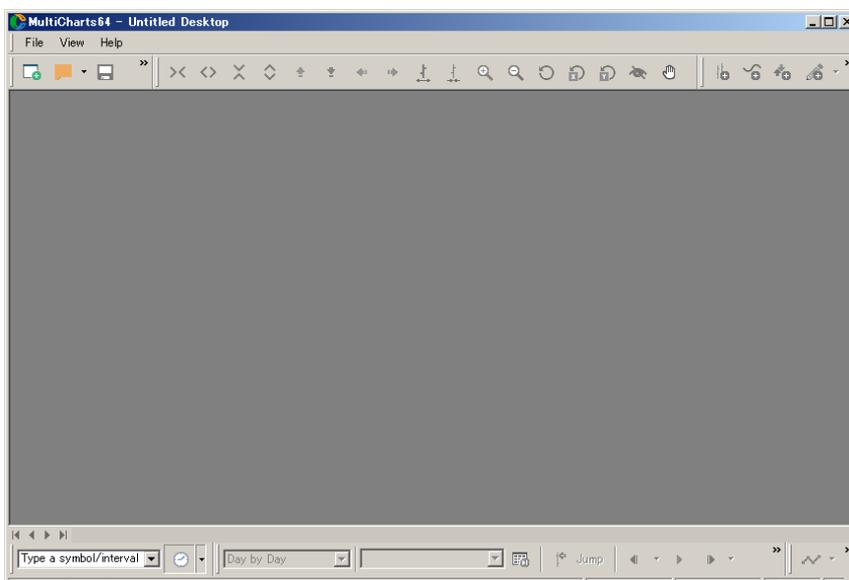
第2編の各種の設定が終わっており、既にクオートマネジャーが起動されている状態を前提にご紹介しています。

※留意点\*\*\*\*\*

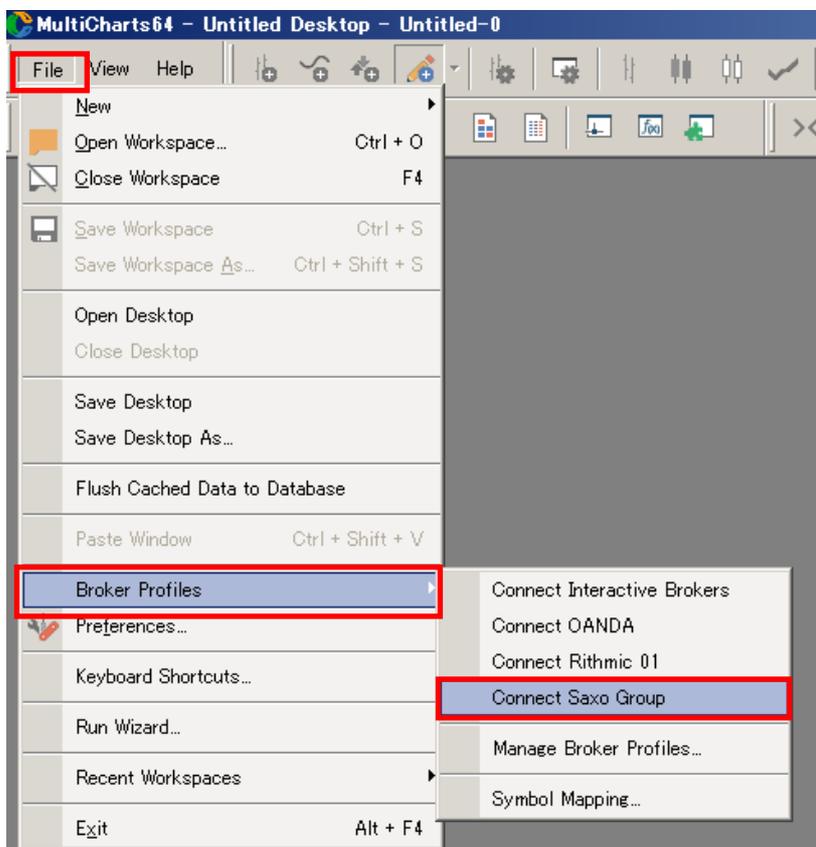
本編は、第2編でご紹介したクオートマネジャーが起動していることが前提となります。

\*\*\*\*\*

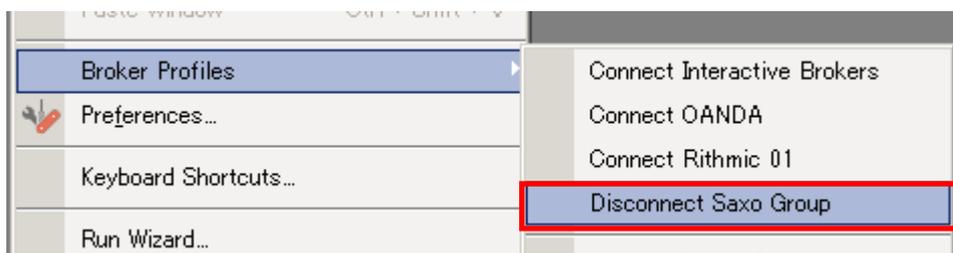
①マルチチャートを起動して下さい。



②マルチチャートを起動したら、File → Broker Profiles → Connect Saxo Group をクリックします。



Connect Saxo Group をクリックすることで、表示は下図のように、Connect という状態から **Disconnect** になります (Saxo Group に接続された状態)。**Disconnect** と表示されていることを確認して下さい。



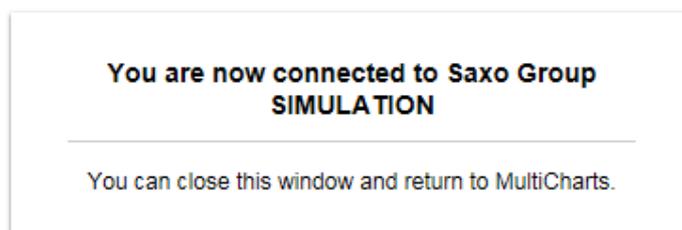
※マルチチャートを再度起動する際には、既に Saxo Group に接続した状態で起動されます。すなわち、設定を変更しない限り、前回の設定が有効になり続けます。

③MultiCharts（OpenAPI Web App）が起動（Demo）しますので、User ID と Password を入力し、Log in します（クォートマネジャーとマルチチャートの設定は SIM（シミュレーション）を選択していることを前提にご紹介します）。

※第 2 編で **LIVE（ライブ）** の設定を行っている場合、すなわち、クォートマネジャーとマルチチャートの設定を **LIVE** にしている場合、下図は Demo ではなく、**LIVE** の MultiCharts（OpenAPI Web App）が起動します。

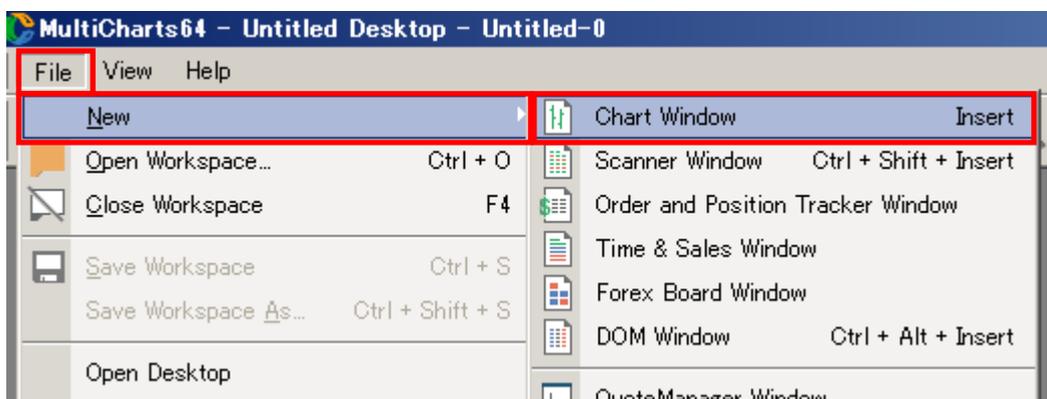
A screenshot of the Saxo Account Authentication login page. At the top, it says "SAXO ACCOUNT AUTHENTICATION". Below that is a red-bordered box containing the word "Demo". Underneath are input fields for "User ID" (containing a vertical bar) and "Password". There is a link "I forgot my Password" and a yellow "Log in" button. At the bottom is a grey "Sign up for Free Demo" button.

※MultiCharts（OpenAPI Web App）に接続が完了しますと、下記の画面がブラウザ上に表示されますので、この画面は閉じて頂いて構いません。

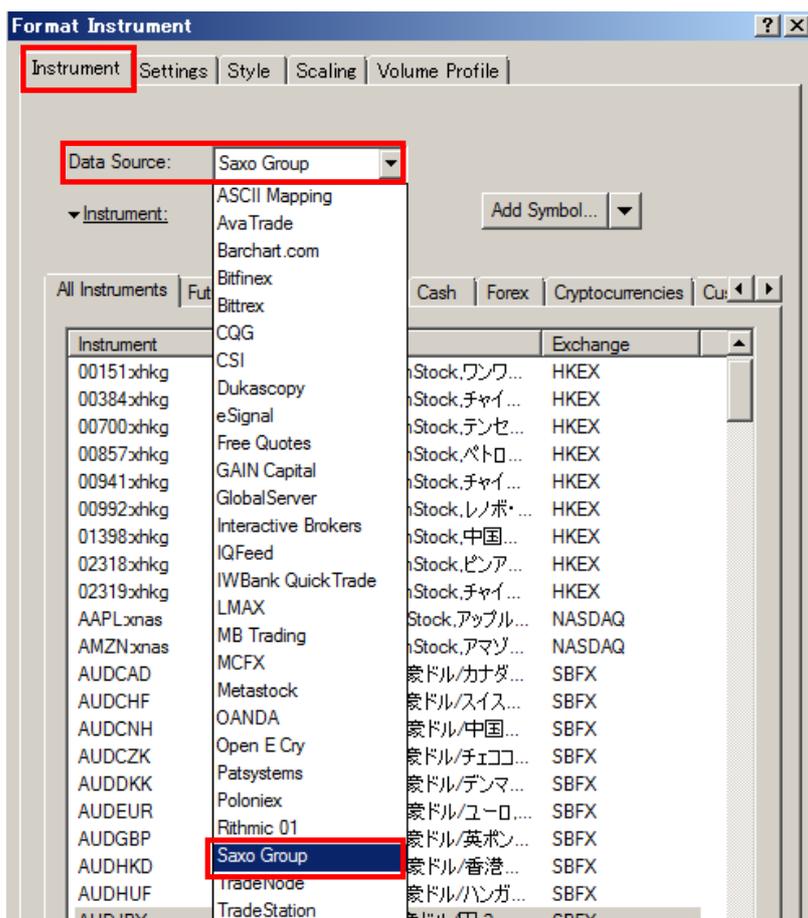


④以下の手順で価格チャートを表示します。

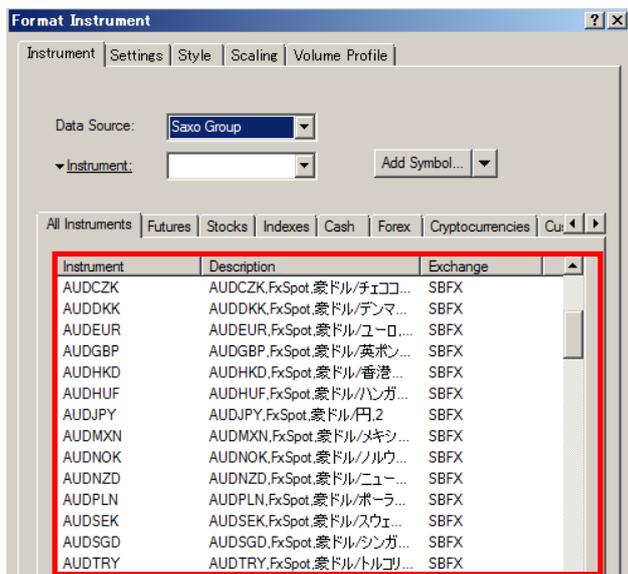
File → New → Chart Window をクリックして下さい。



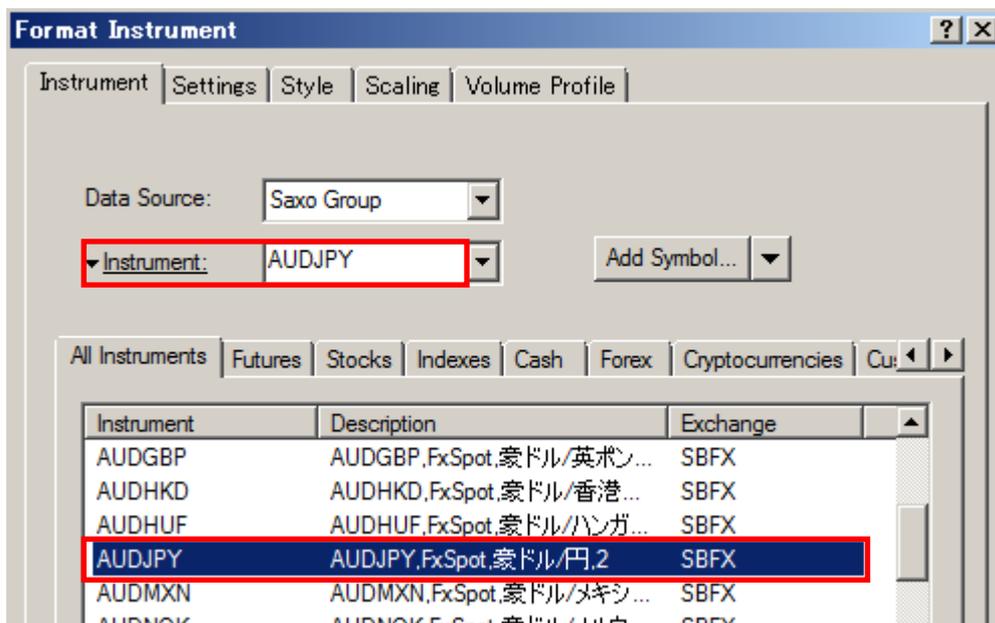
⑤起動した Format Instrument ウィンドウ の Instrument → Data Source はプルダウンして、Saxo Group を選択して下さい。



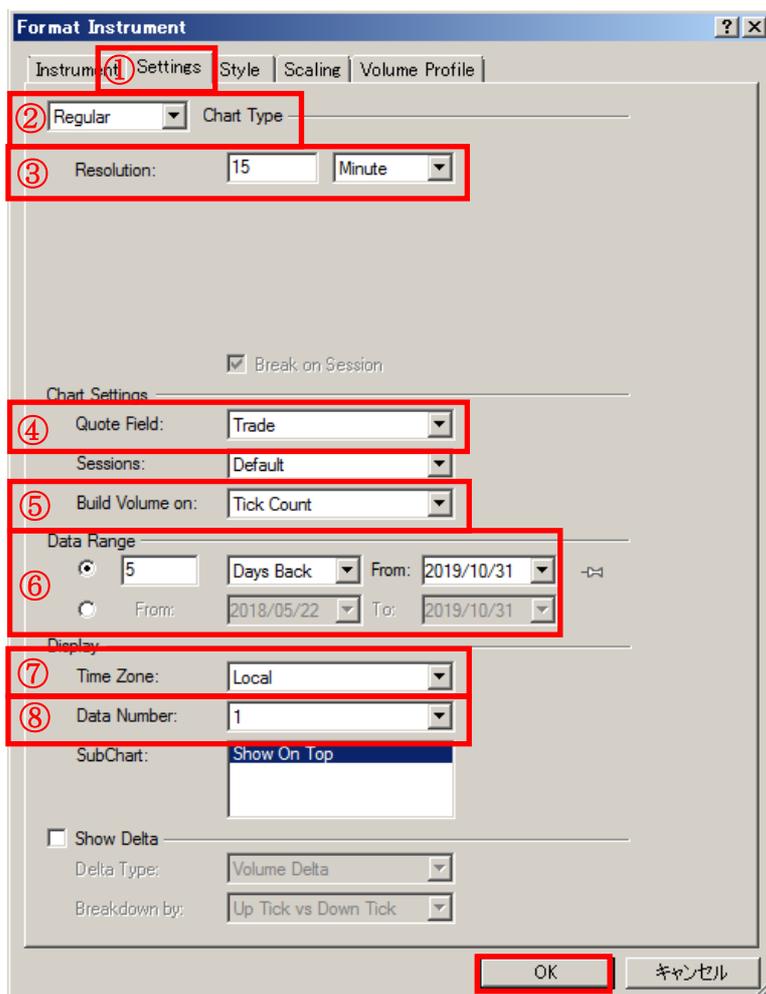
⑥クオートマネジャーで登録した全 FX 通貨ペアが表示されます。



⑦既に登録した全通貨ペアの中から、AUDJPY（豪ドル円）を選択して、チャート表示してみます。



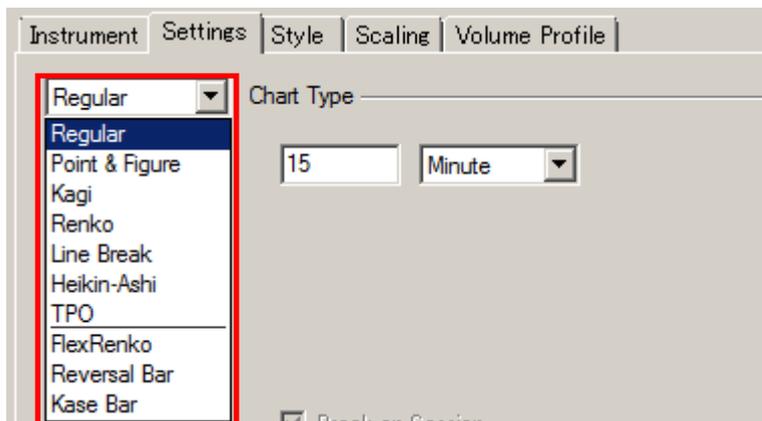
⑧チャートの各種設定 (Settings) を行います。



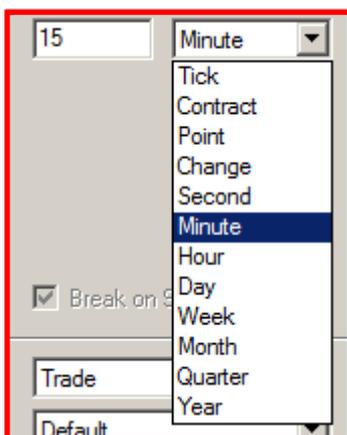
上図内の赤字①～⑦につきましては、次頁以降でチャート表示に必要な設定となりますので、下記で詳細にご紹介します。なお、上図の⑧につきましては、参考として、プログラムを記述し戦略を設定する場合の設定方法となりますので、**第7編 マルチ・データの導入**で詳細にご紹介します。

☒① : Settings を選択して下さい。

☒② : チャートの種類 (タイプ) を選択します (通常の価格チャートの場合は、**Regular**)。なお、Regular 以外のチャート形式は、下図のようにプルダウンして選択することができます。

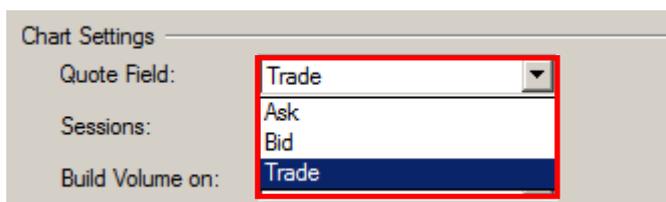


☒③ : 時間枠 (タイムフレーム) を選択します。下図では、”15 分足” の表示例ですが、数値はご自身で入力し、タイムフレームについては分足以外にも選択可能です。



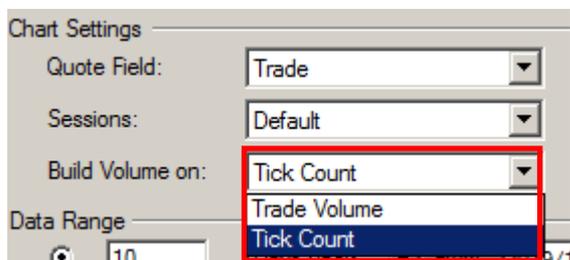
☒④ : 価格データ (Quote Field) の表示形式を選択します。

Ask、Bid、Trade (Trade で表示されるデータは、Mid (中間) 値です。Mid = (Ask+Bid) ÷ 2) を意味します。Trade (中間値) のデータにつきましては、**第4編 SaxoTraderGO の起動する必要性と価格表示の設定方法**で詳細にご紹介します) の中から選択可能です。

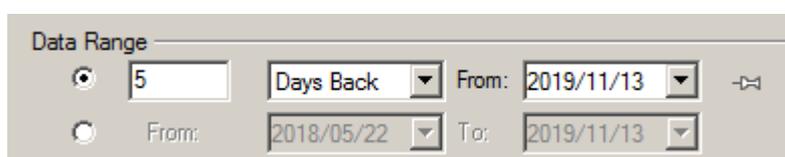


図⑤ : Build Volume on では、出来高の表示形式を選択します。

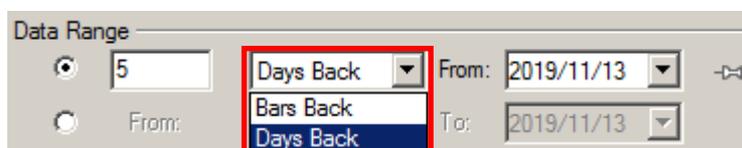
先物や株式などの取引所取引の出来高の場合は、Trade Volume を選択、FX のような相対取引の場合は、Tick Count を選択します。



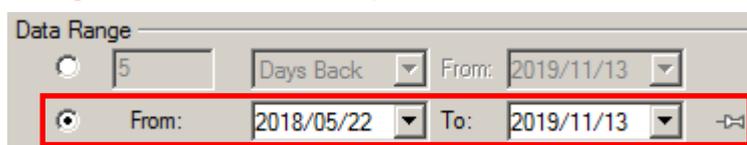
図⑥ : チャートの表示期間 (Data Range) では、2通りの表示指定 (下記) があります。



その① : 1つ目の指定方法は、基準点より遡る形式です。当該基準点にはさらに2つあり、「何日間」遡るのか、もしくは、「表示したチャートのバーをいくつ」遡るのか、を選択することが可能です。



その② : 2つ目の指定方法は、開始する日付と終了する日付を指定する形式です。



図⑦ : チャートの時間表示の形式を選択します。Local 形式を選択した場合は、ご自身のお使いのコンピュータの時間 (タイムゾーン)、Exchange 形式を選択した場合は、チャート表示する銘柄の属している取引所基準の時間表示になります。ご自身と同じコンピュータの時間を基準にチャートを表示させたい場合は、Local を選択して下さい。取引所と同じ時間でチャートを表示したい場合は、Exchange を選択して下さい。



※参考\*\*\*\*\*

図⑧はチャート上で表示するデータ表示の順番を示します。当該設定は、プログラムと連動するために、同一ワークスペース内に複数のタイムフレームのチャートを表示するような場合（例えば、データ 1 に 5 分足、データ 2 に 60 分足、といったケース）に指定します。通常は「1」のままで結構です。第 7 編 マルチ・データの導入で詳細にご紹介します。

\*\*\*\*\*

図①～図⑦の設定が完了しましたら、最後に、OK をクリックします。

皆さんの設定に基づいて取得されたデータ（豪ドル円（AUDJPY））の価格チャートが表示されます。

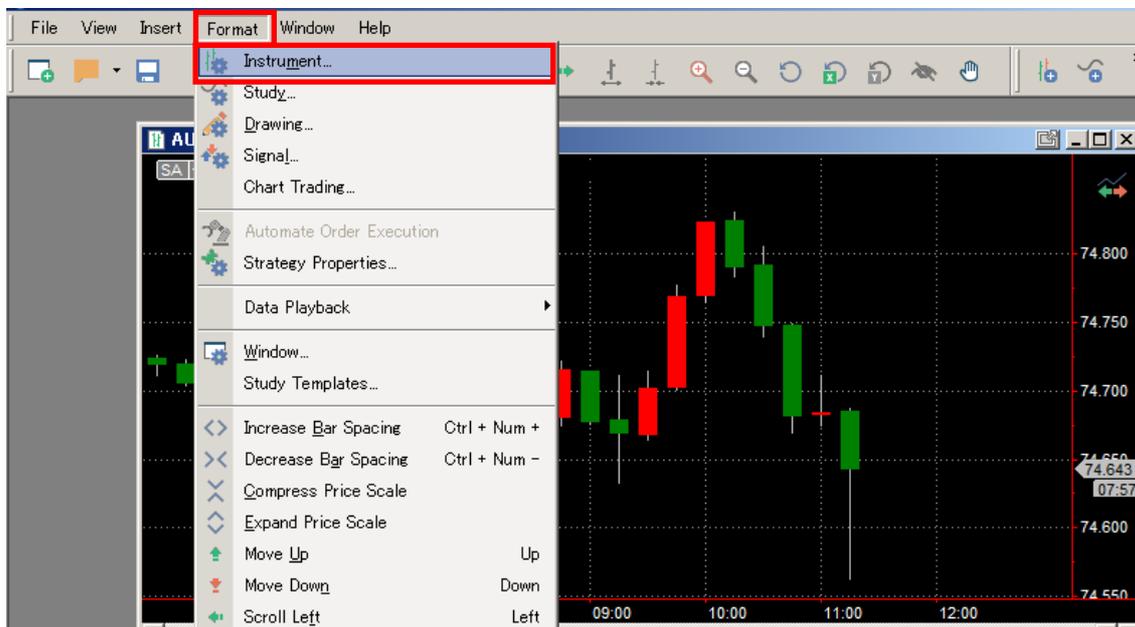


※留意点\*\*\*\*\*

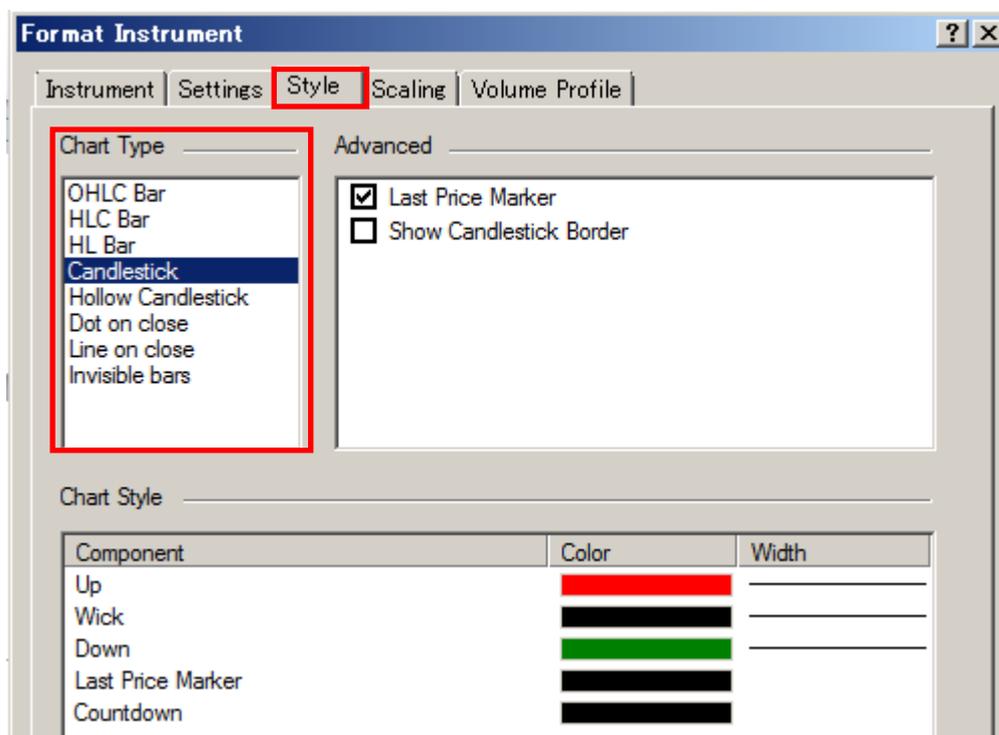
長期間のデータ表示は、初回はクオートマネジャーに保存されていないため、時間がかかります。まずは、5 営業日などに設定してデータが読み込めることを確認して下さい。

\*\*\*\*\*

なお、ローソク足などのチャートスタイルを選択するためには、下記のように行います。  
(手順1) Format → Instrument をクリックします。



(手順2) 次に、Style 中の Chart Type の中から好みの形式を選択します (皆さんにお馴染な形式は、Candlestick でしょうか)。チャートの色なども各種選択可能です。



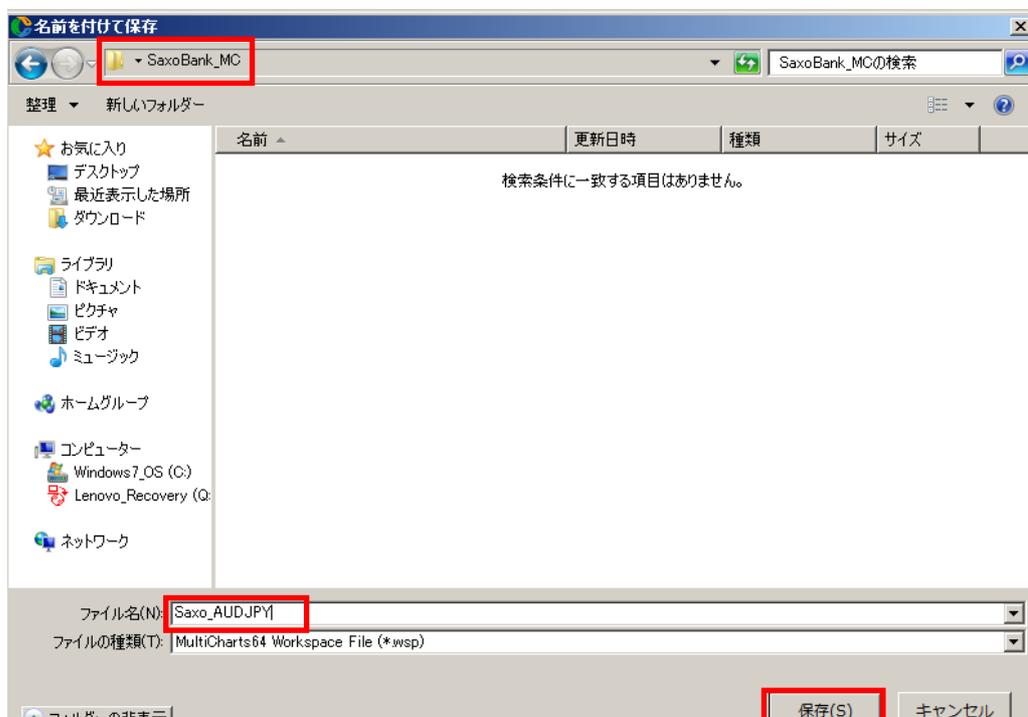
以上の手順により、チャートスタイルが決定されます。

ここまで行ってきた設定により表示したチャートウィンドウ（ワークスペース）は、必要に応じて保存することが可能です（保存することで、次回以降の起動時に、前記したチャート設定作業（分足や期間の設定等）が省略できます）。

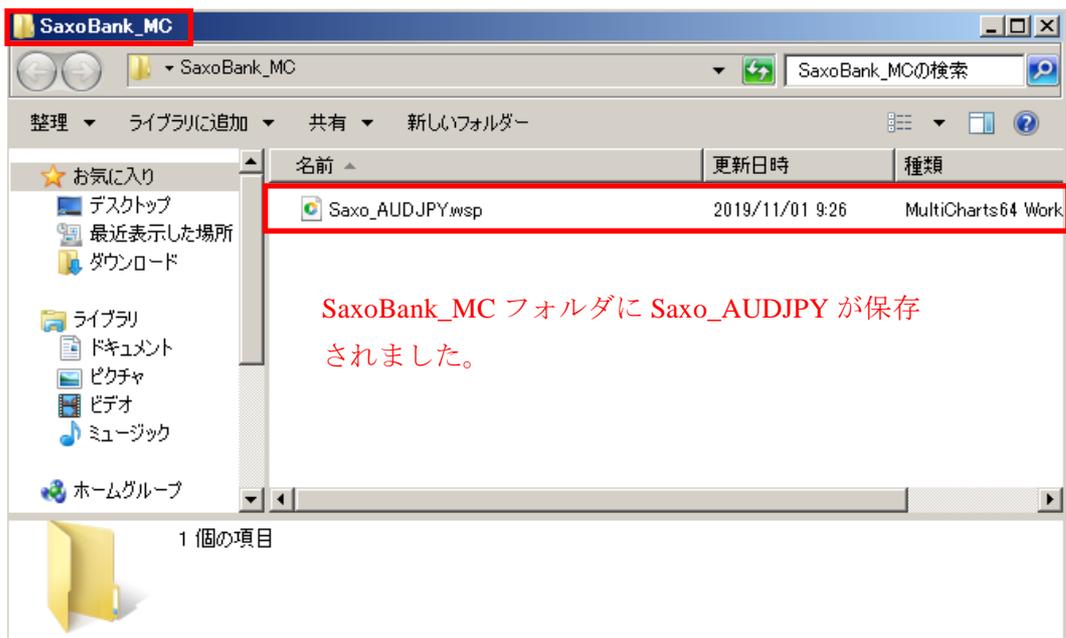
（保存方法）File → Save Workspace をクリックします。



下図のように、コンピュータに事前に適当なフォルダを作り（フォルダ名は、SaxoBank\_MC と付けました）、当該フォルダに保存するワークスペース名は、Saxo\_AUDJPY と名前をつけました。最後に、保存をクリックして下さい。



SaxoBank\_MC と名前を付けたフォルダ内に、Saxo\_AUDJPY と名前を付けたワークスペースが保存されました。次回以降は、Saxo\_AUDJPY をダブルクリックすることで、設定を保存したワークスペースが起動します。



※留意点\*\*\*\*\*

クオートマネジャーにデータを保存する方法は、マルチチャートとクオートマネジャーを閉じると、数秒から数十秒以内の間に下図の **MultiCharts64 Saving Data to Storage** というウィンドウが起動し、クオートマネジャーにデータの保存が行われます（データの保存量にもよりますが、概ね、数秒から1分程度かかります）。保存が完了しますと、このウィンドウは自動的に消えますので、それまでお待ち下さい。



\*\*\*\*\*

※参考 クォートマネジャーを利用しないチャート表示\*\*\*\*\*

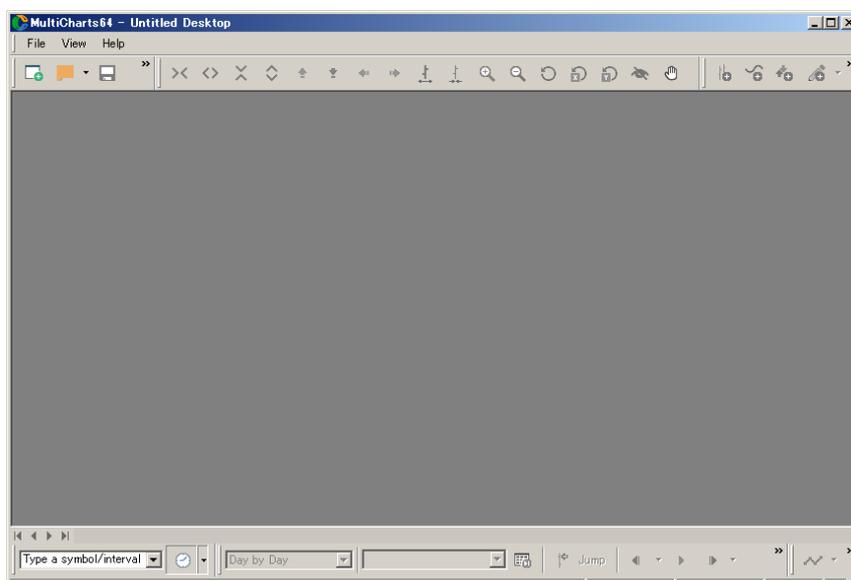
データ管理を行うクォートマネジャーを利用したFXのチャート表示方法をご紹介します。再確認しますと、クォートマネジャーに銘柄を登録、次にマルチチャートで価格チャートを表示するという方法でした。

しかし、長期間のデータを利用しない場合や、数日間のチャートが見たい等のケースでは、クォートマネジャーを利用せずに、簡単に価格チャートを表示する方法がありますので、参考までにご紹介させていただきます。

例) ドル円の価格チャートを表示するまでの手順をご説明します。

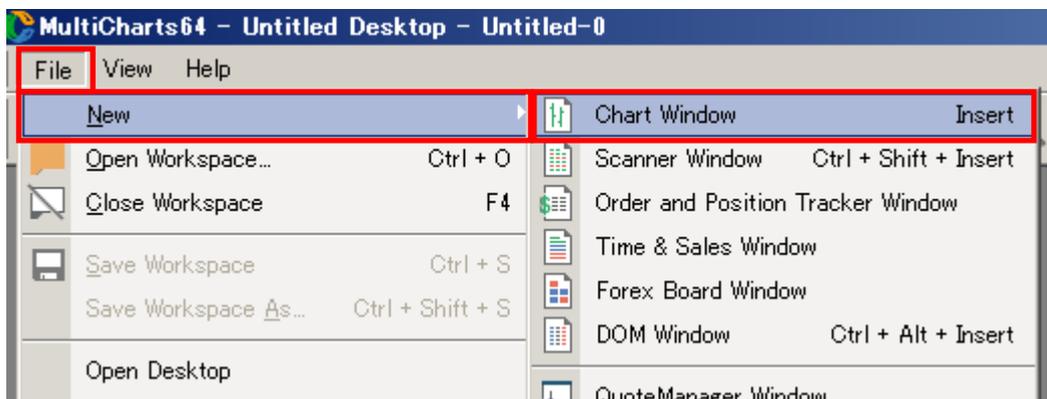
※なお、ここまでご紹介したクォートマネジャーでの銘柄登録は行っていない状態を想定します。

①マルチチャートを起動します (Saxo Group に接続している状態を確認して下さい)。

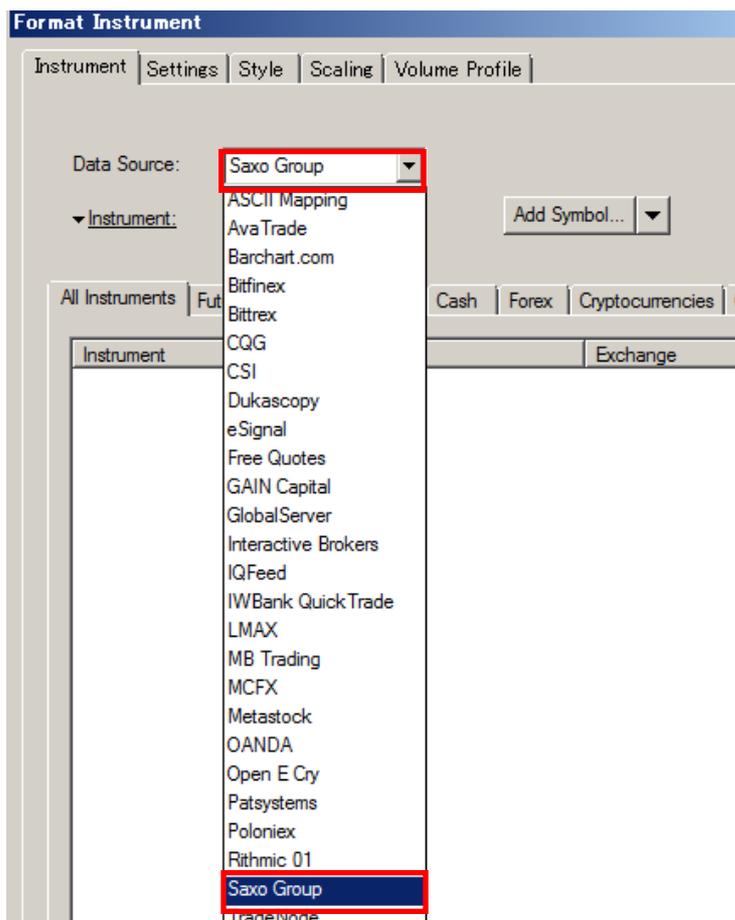


②次に、以下の手順で価格チャートを表示します。

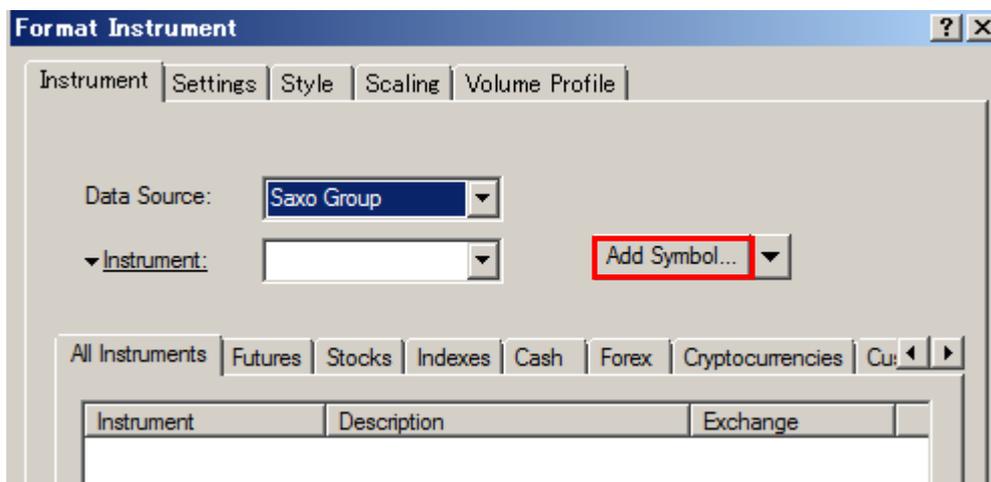
File → New → Chart Window をクリックして下さい。



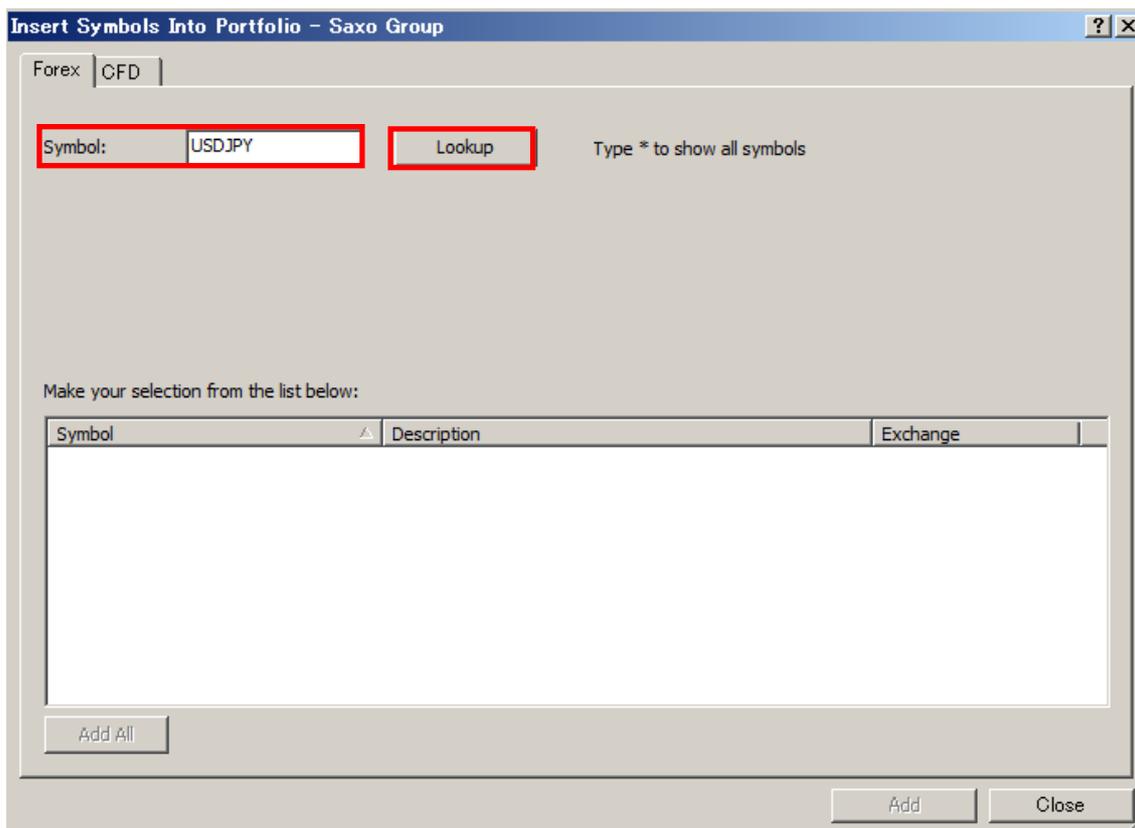
③起動した Format Instrument ウィンドウ の Instrument → Data Source はプルダウンして、Saxo Group を選択して下さい。



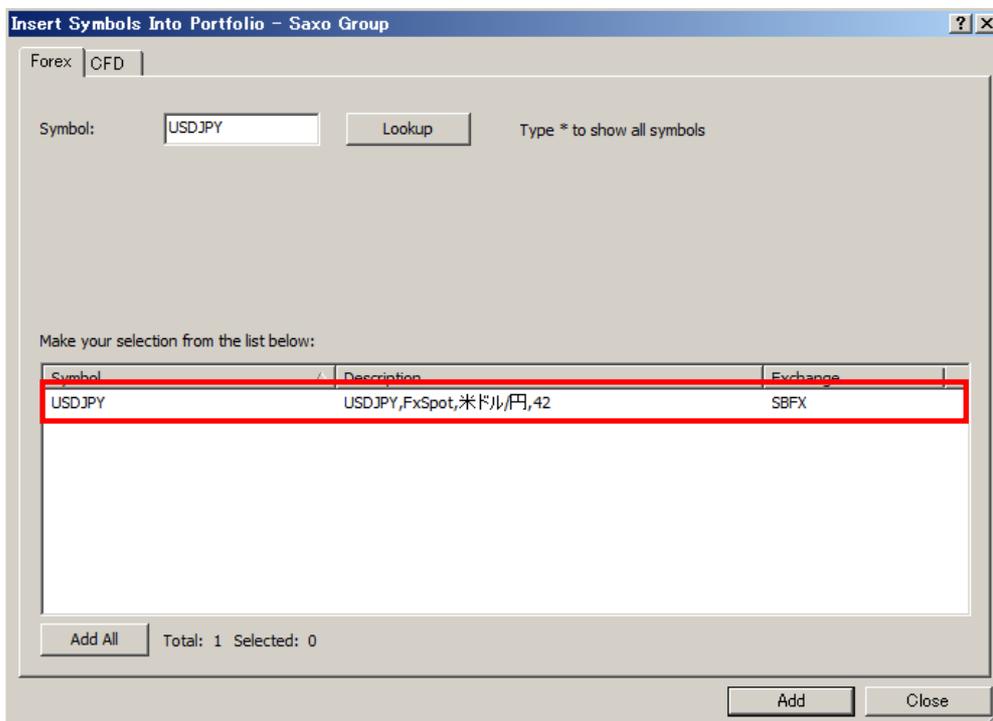
④続いて、Add Symbol...をクリックします。



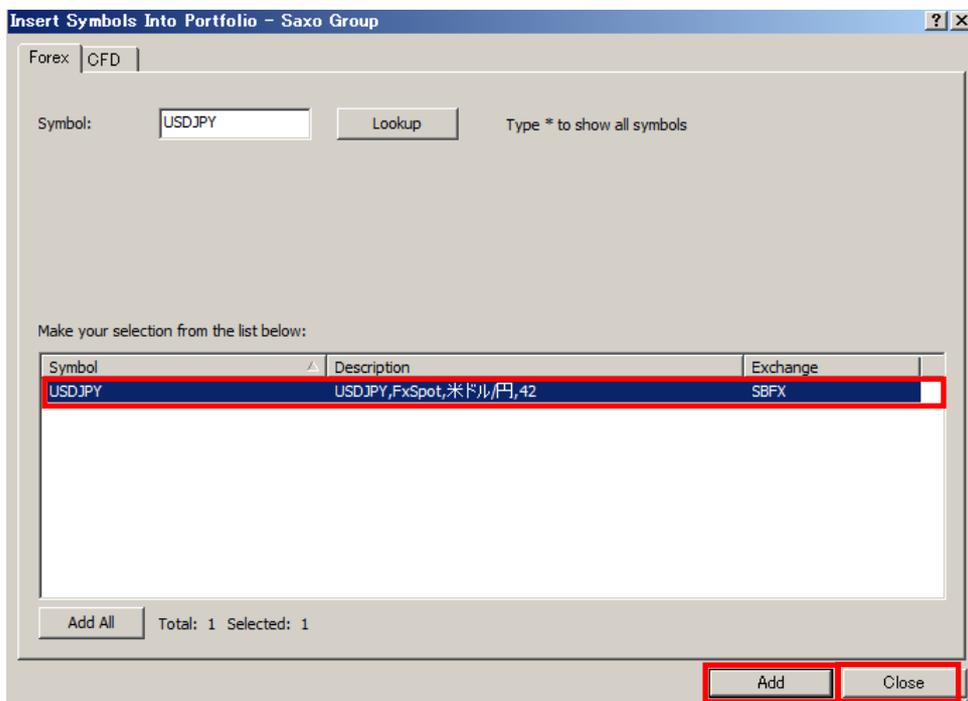
⑤ Insert Symbols Into Portfolio – Saxo Group ウィンドウが起動しますので、Symbol 欄に「USDJPY」と入力し、Lookup をクリックします。



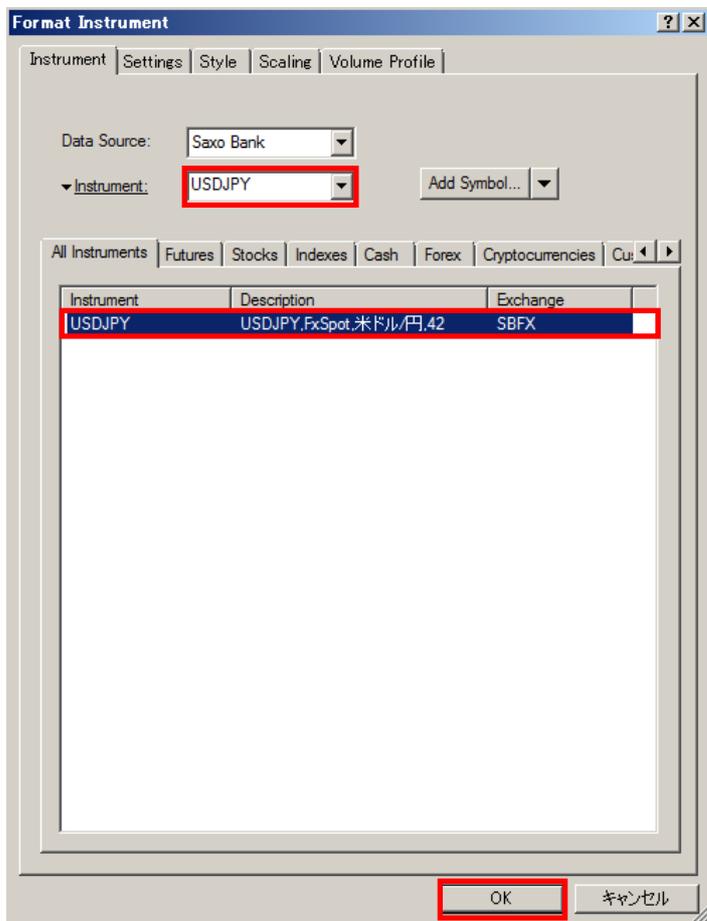
⑥しばらく待つと、下図のように USDJPY が表示されます。



⑦USDJPY を選択し、Add をクリックします。Add をクリックすることで、銘柄が登録されます。その後は Close をクリックしてウィンドウを閉じて下さい。



⑧Format Instrument ウィンドウに戻ります。USDJPY を選択し、OK をクリックします。



⑨下図のように、ドル円のチャートが表示されます（タイムフレームなどの設定は、第3編⑧を参照して下さい）。



\*\*\*\*\*